

子宮頸部に発生した腫瘍性病変の一例

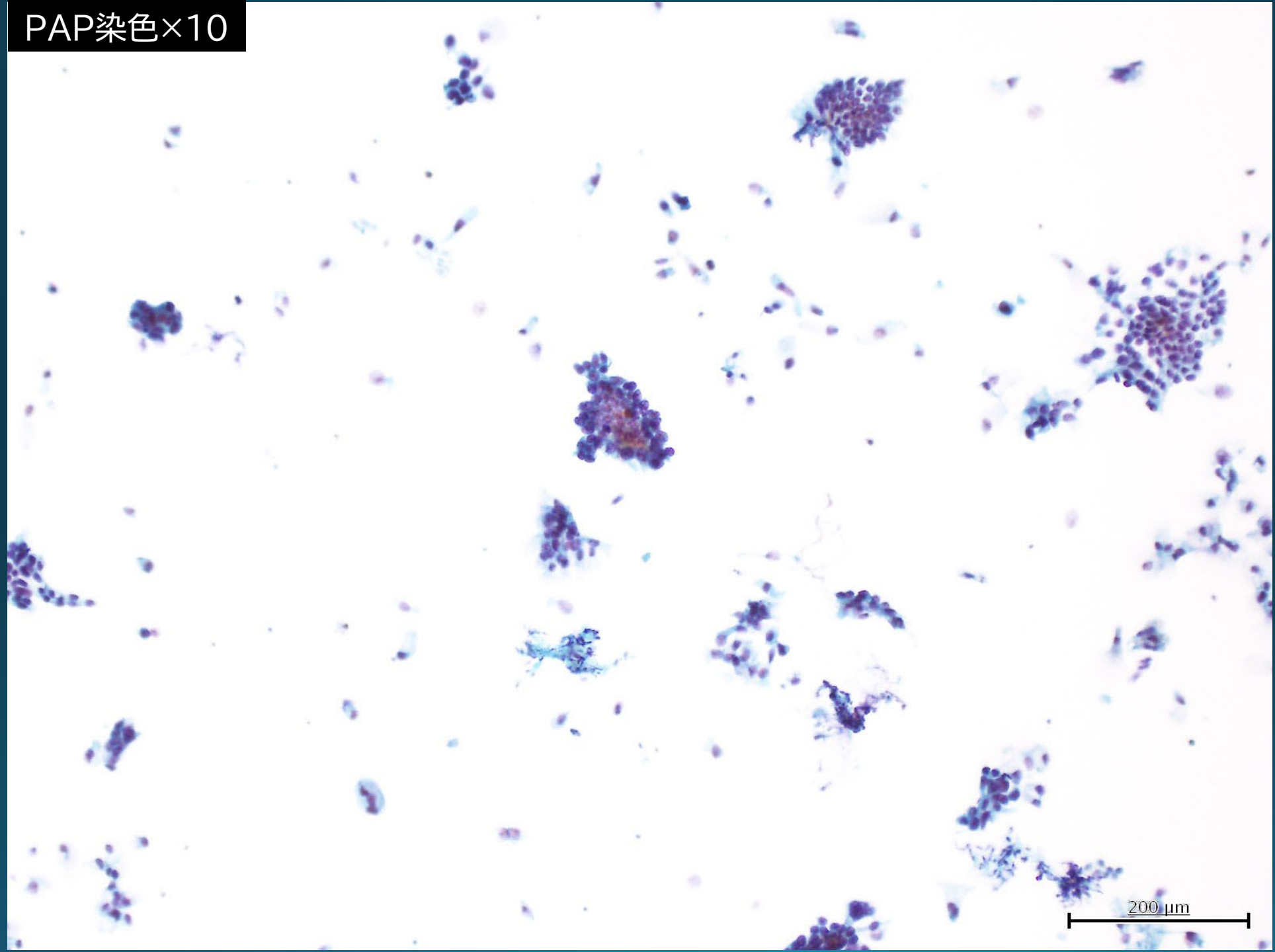
株式会社QCL大分病理

平山 うらら

症例

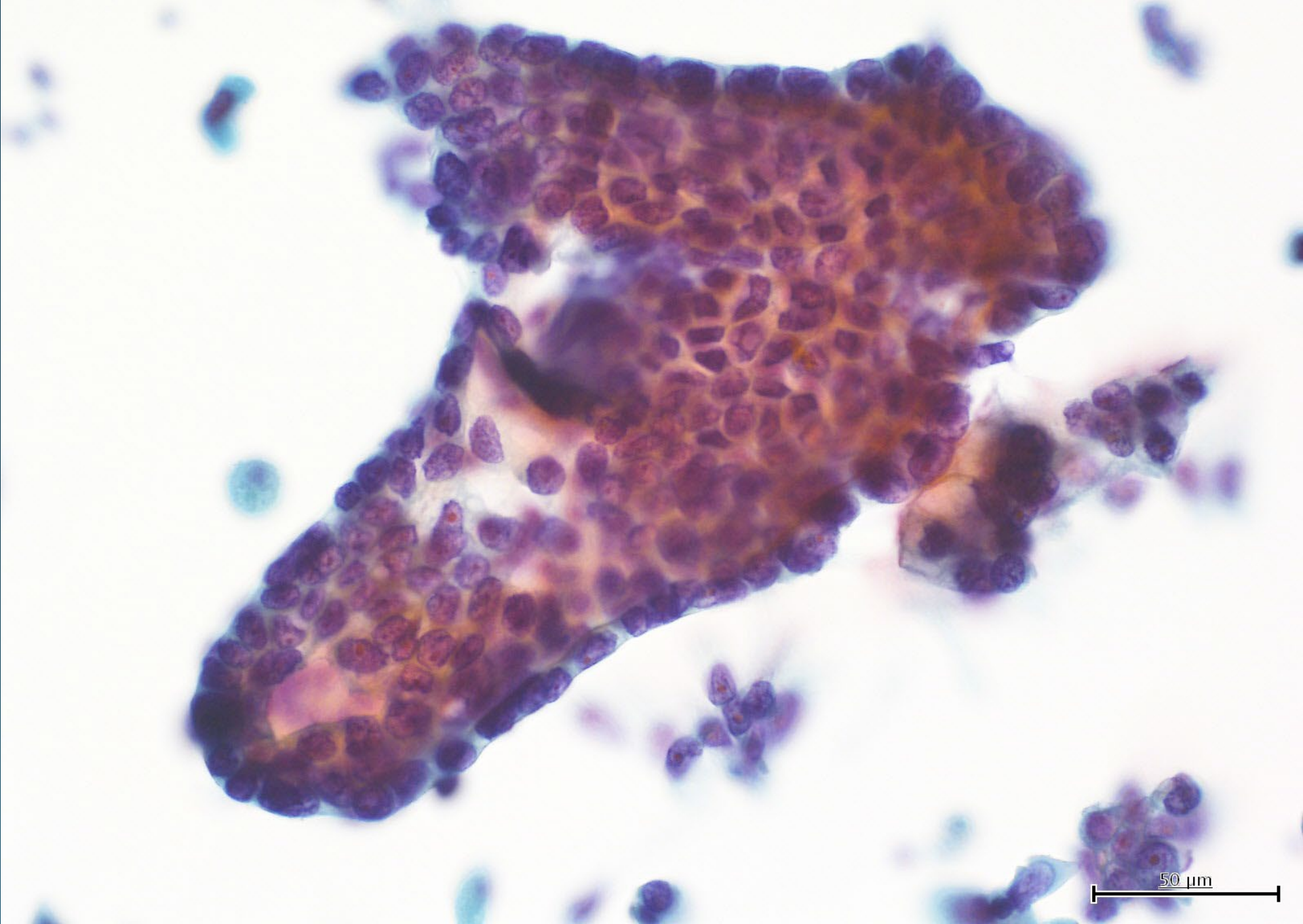
- 年齢: 70歳代
- 性別: 女性
- 主訴: 消化器内科で撮影したCTにて子宮頸がんが疑われたため転院となり細胞診が施行された。
- 検査材料: 頸部 ブラシ
- 標本作製: 液状検体法 (SurePath法)

PAP染色×10

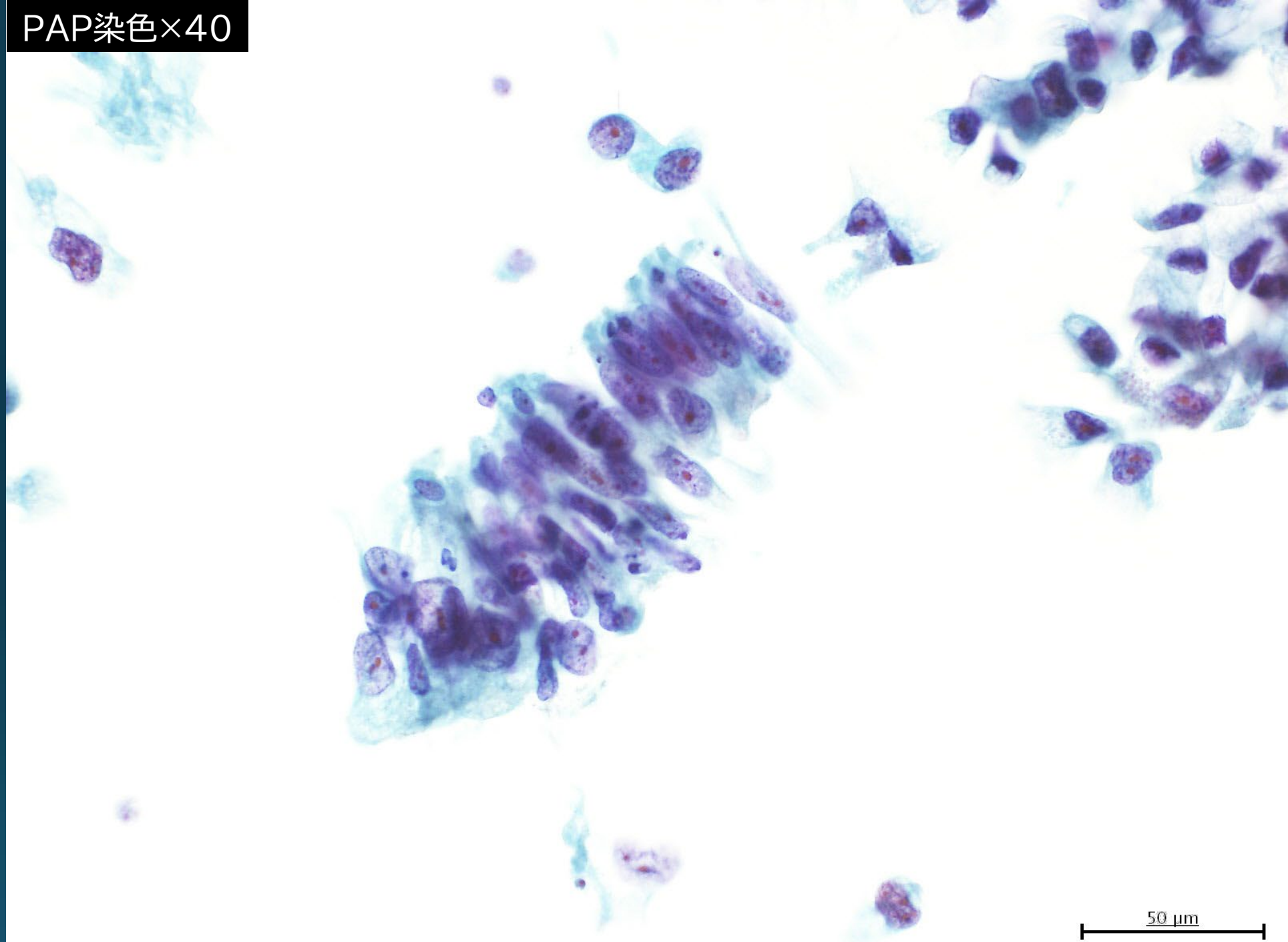


200 μm

PAP染色×40

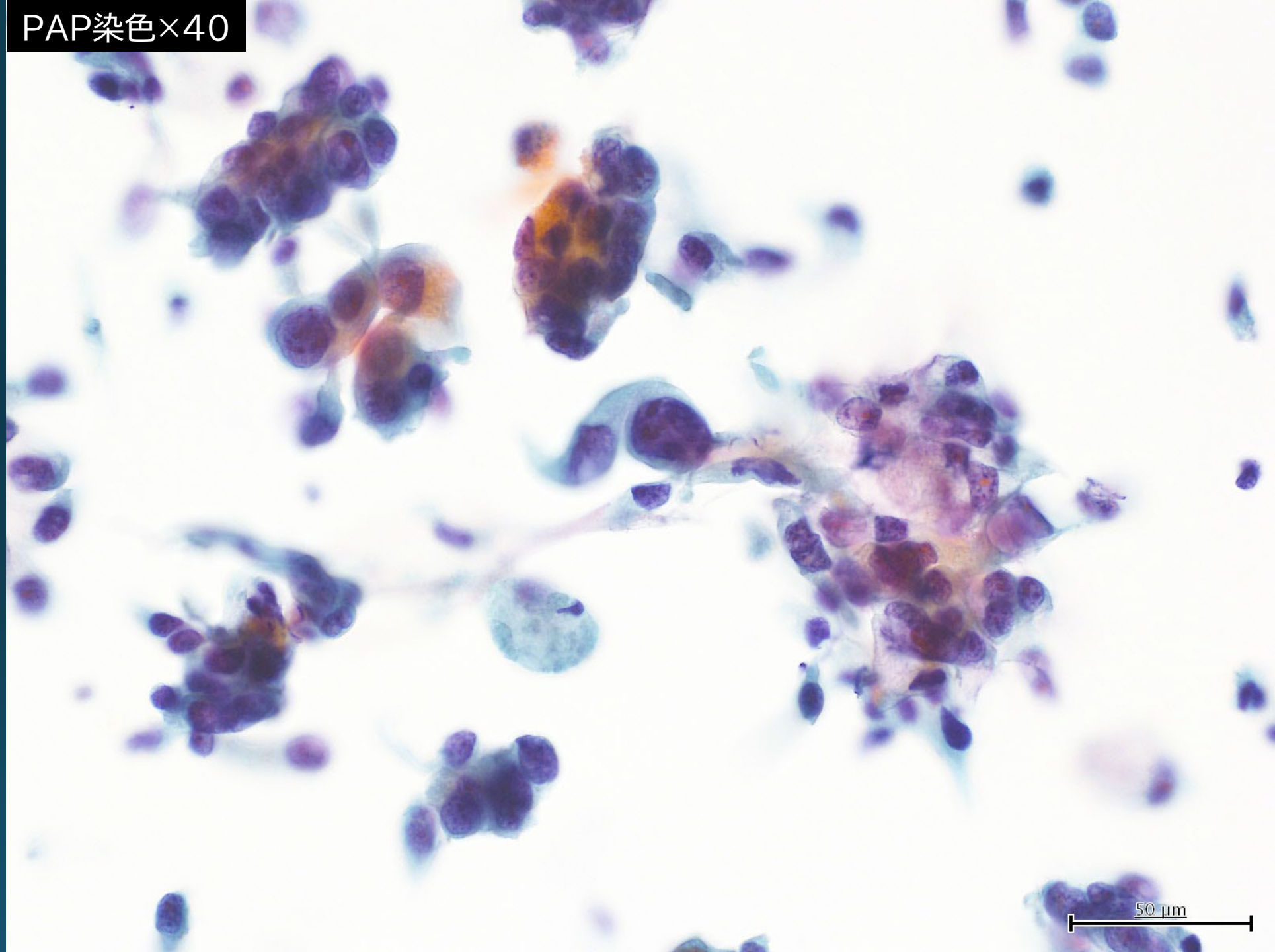


PAP染色×40



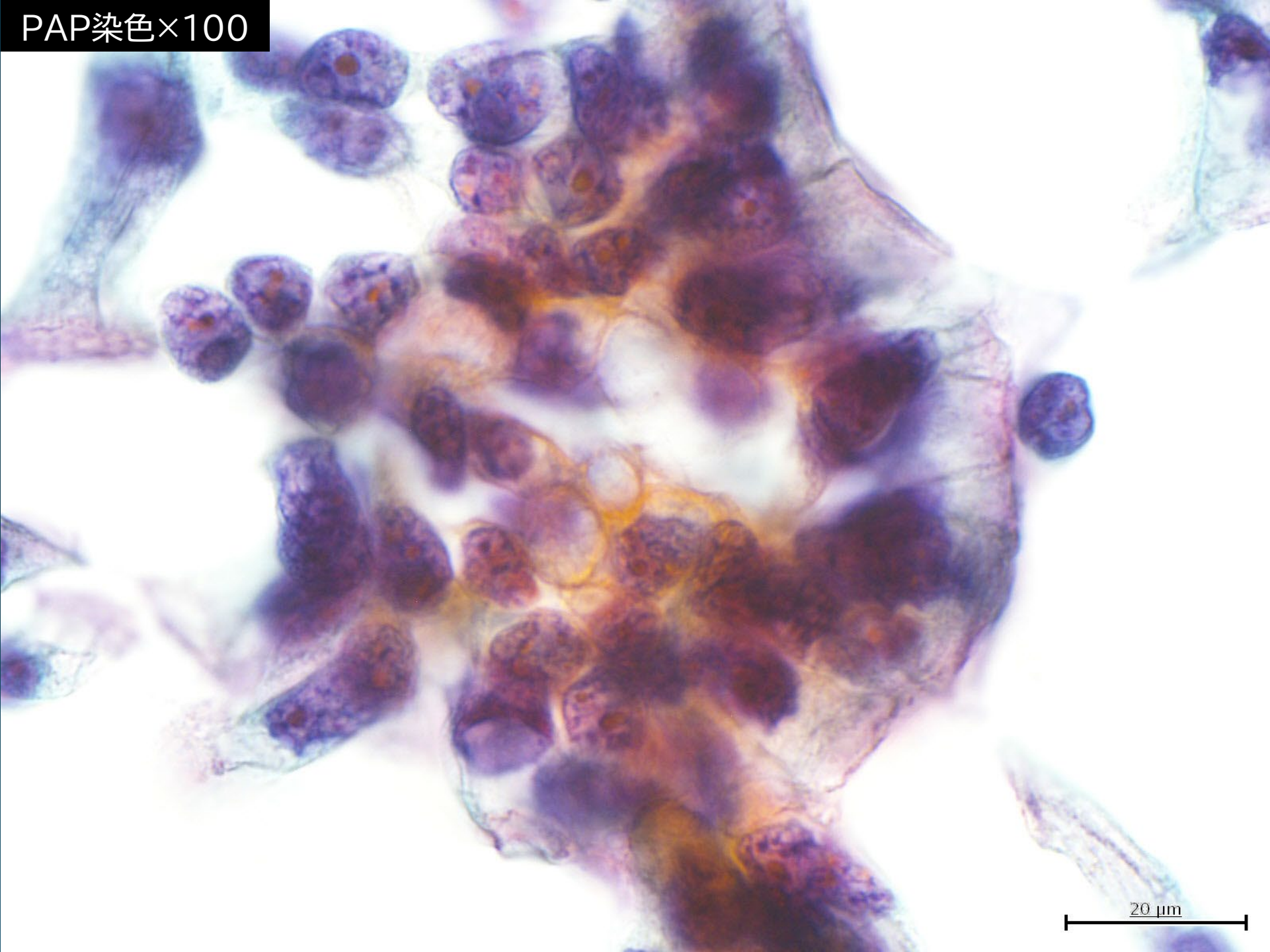
50 μ m

PAP染色×40



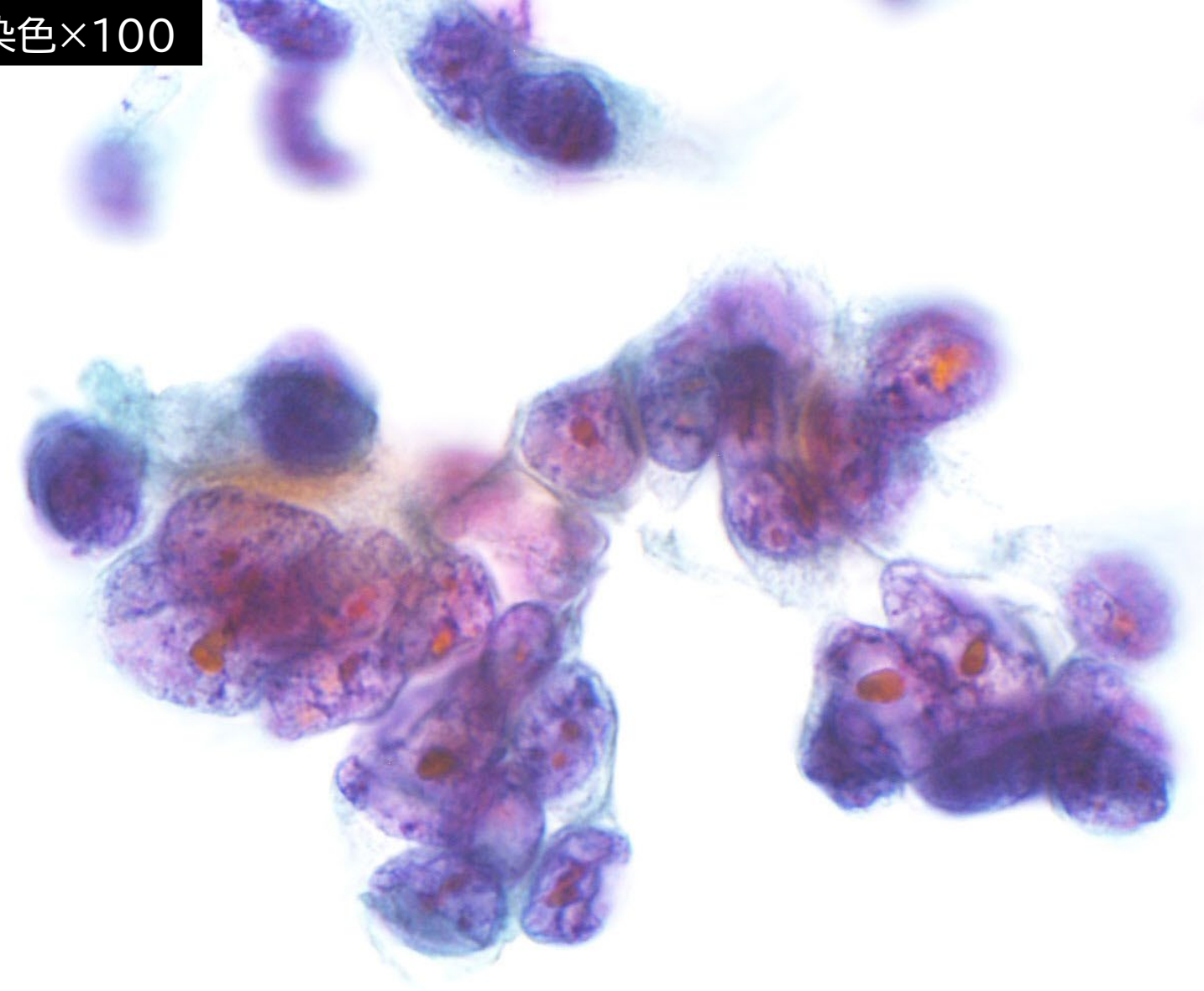
50 μm

PAP染色×100



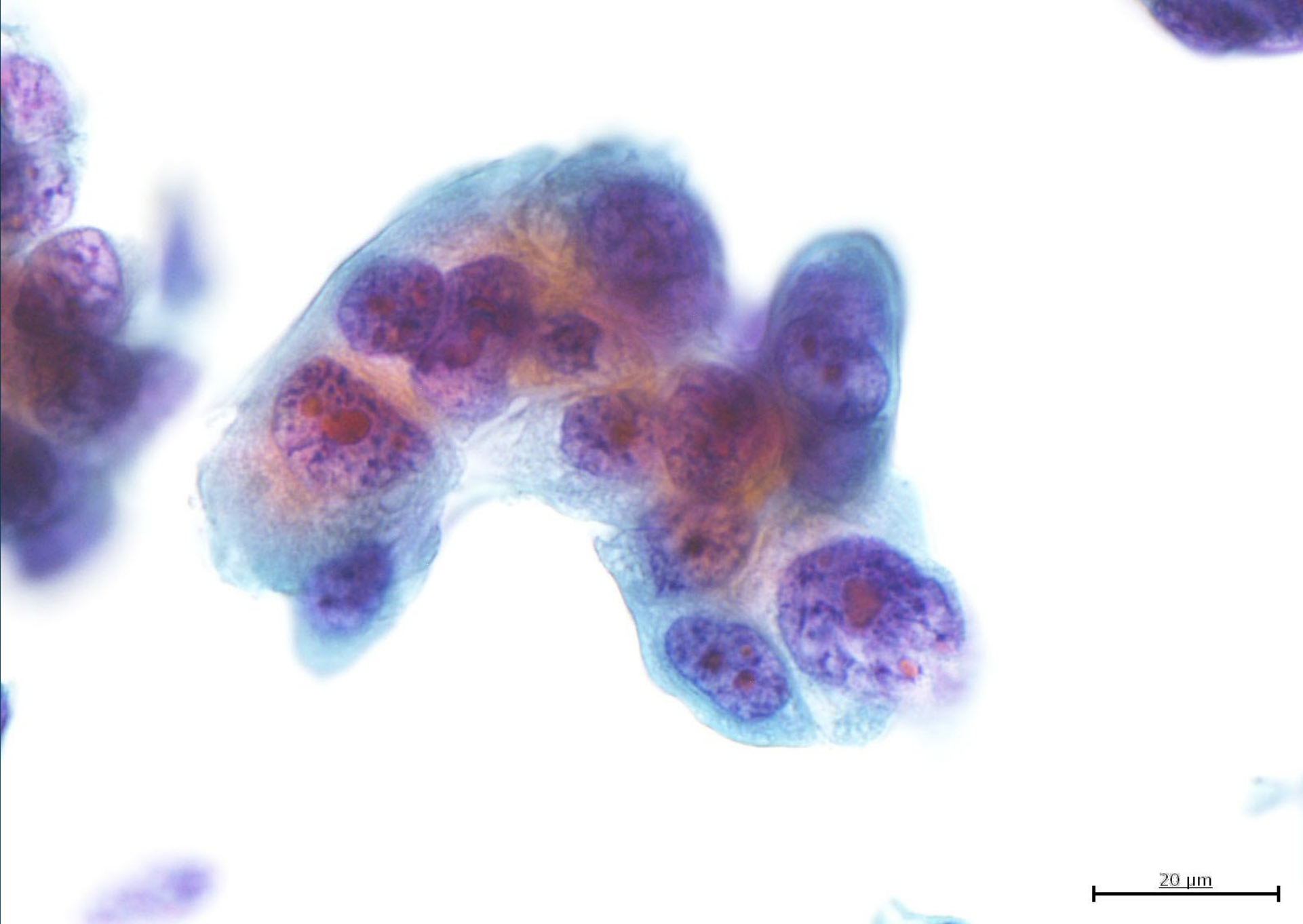
20 μm

PAP染色×100



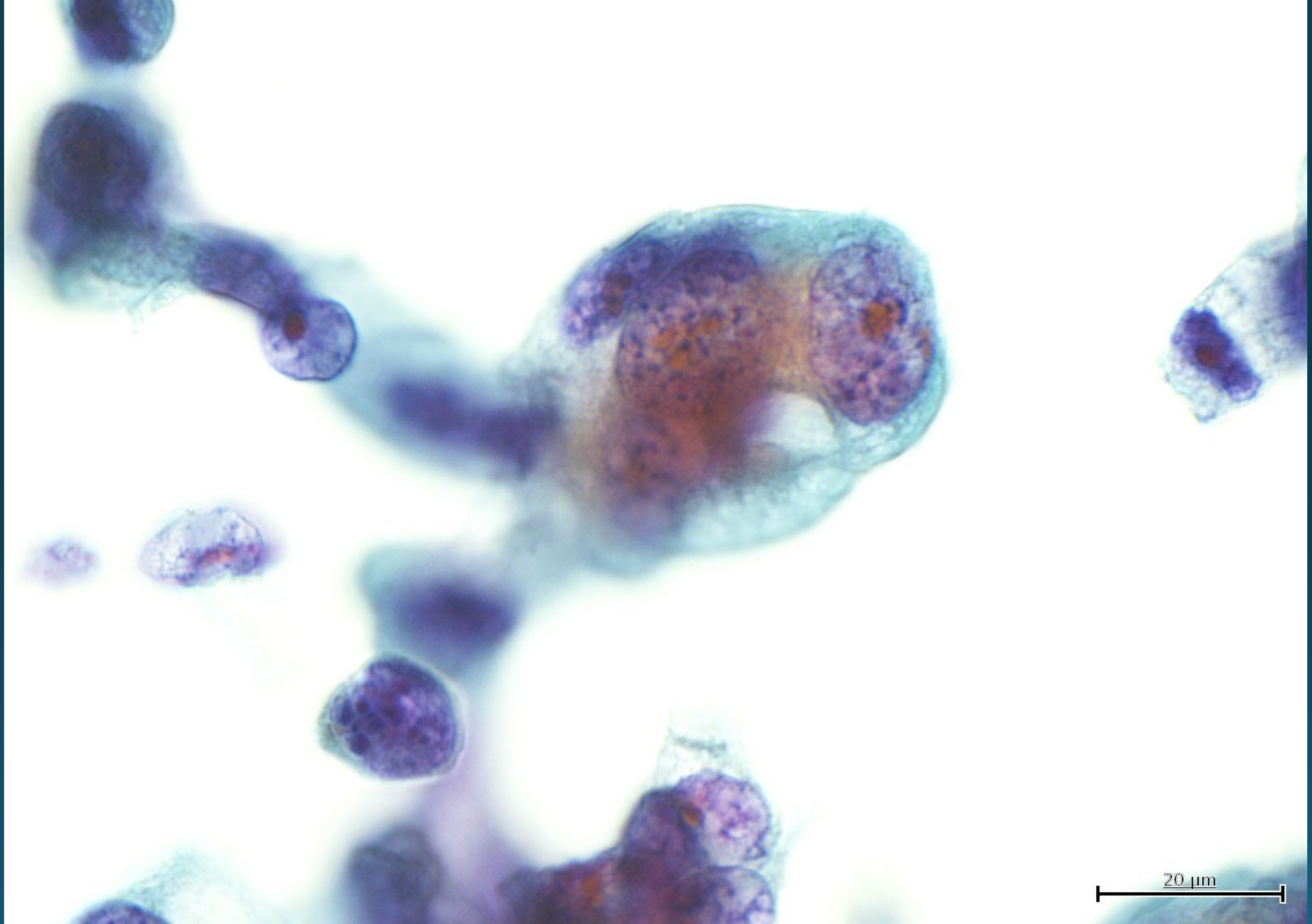
20 μm

PAP染色×100



20 μm

PAP染色×100



20 μm

選択肢

- ① HPV関連型腺癌（通常型内頸部腺癌）
- ② HPV非依存性腺癌（胃型腺癌）
- ③ 類内膜癌
- ④ 転移性腺癌（大腸癌）
- ⑤ 悪性黒色腫